

金沢大学英文学会

*The Society of English Literature, Kanazawa University*No. 11 *NewsLetter*

2019.11.1

★ 金沢大学英文学会は、1953 年 1 月第 1 回卒業生の予餞会で結成。年 1 回総会と講演会・研究発表会を開催、学会誌 *KES* は 1954 年創刊、現在 30 号を数える。

=====

芸術の寿命

高田 茂樹

しばらく前に、NHK の BS で丹下健三の業績を辿る番組を流していた。おそらく再放送のもので、最初の放送の際にも見たように思ったが、ついそのまま見入ってしまった。

丹下の作品が改めて注目されたのは、2020 年の東京オリンピックで代々木の国立屋内総合競技場が競泳などの会場として再び用いられることになったということもあったのだろう。実際、この競技場は、1964 年の最初の東京オリンピックのために建てられたのだが、競技施設としての優れた利便性に加えて、しなやかさと力強さを兼ね備えたその美しいフォルムで人々に深い感銘を与えて、大会の後で丹下は国際オリンピック委員会から特別功労者として表彰されている。その競技場が以後ずっと戦後の日本を代表する建築物の一つとされ、創建から 50 年以上、丹下が亡くなってからも十数年を経て、再びオリンピックの競技場として脚光を浴びているわけである。

建築も、とりわけ、こういった優れた建築物は、芸術の域に達していると思われるから、その点では、まさしく「人生は短く、芸術は長い」と言えるだろう。

しかし、どの芸術作品でもそうだが、建築物も、一見堅牢で変化や荒廃を免れているようで、外側は風雪に晒され、内部も住んだり使用したりする人々によって傷つけられたりして、劣化していつ、それ以外にも使う人々の需要が変われば、使用に耐えうるものでも取り壊されるということもあり、決して恒久的なものではない。

そんなとりとめのない思いを巡らせていて、では、われわれにとって一番なじみ深い戯曲や小説など文芸のテキストの寿命はどうだろうと考えてみると、表現媒介としての性格が全く異なっているので一概に比較は出来ないだろうが、文芸は、一見したところ、(少なくともごく最近までは) 紙のように頼りがいのない素材に依拠しているので、建築などよりずっとはかなく失われやすいように感じられるが、実際には、筆写や印刷、再版など、さまざまな形で転生を繰り返すことが出来て、その生命力は建築などよりはるかにしぶといとも言えよう。ましてや、今日では、執筆も流通も電子媒体に依ることが多くなっていて、その分、劣化や消失のリスクは限りなく小さくなり、それだけ見れば、ほとんど不滅の生命を得たと言っても過言ではないかもしれない。

尤も、これはあらゆる媒介・ジャンルについて言えることだが、作品が何らかの形で残っているという意味での命の長さと、実際に人々がその作品を見ようとしていたり広く読んだりするという意味での寿命とは、明らかに別である。優れた建築家の設計になる建物が今も愛されているというのは、それが堅牢な建造物であ

るということと、全く無関係というわけではないだろうが、ひとまず別の次元の話だろう。文芸作品の場合、この二つの寿命の乖離は、建築物などよりはるかに顕著と言えよう。いくら紙媒体として本というかたちで一あるいは、電子的な仮想空間にファイルとして一残っていても、それを読んだり顧みたりする者もなく忘れ去られれば、その作品はほとんど死んだも同然になってしまう。

シェイクスピアの芝居は、今も世界中で広く読まれ、上演され、また映画化も繰り返されているから、寿命としてはきわめて長いわけだが、そのシェイクスピアが四百年あまり前ロンドンで芝居を書いていたときに、彼が自分の書いたものがその後もずっと生きながらえていくだろうと想定していたかと言えば、その答えは基本的には「ノー」ということになるだろう。

シェイクスピアとほぼ同時期にベン・ジョンソンという劇作家がいて、シェイクスピアのキャリアの後半期にはむしろ彼をしのぐほどの人気を博していた。このジョンソンは、1616年に、戯曲のテキストとしては前例のない大型のフォリオ（二つ折り）版で、自身の『全集』を刊行している。単に大型で立派であるというだけでなく、作家自身がきわめて綿密に校正をしており、そのため、ジョンソンのテキストは、難解な部分が少なくないにもかかわらず、ほとんど異同の問題を含んでいない。このことは、彼が自分のテキストが後世の人々にどう読まれるかということに心を砕いていたことの証しの一つと考えられている。ジョンソンはつねづね古代ローマの風刺詩人ホラティウスを心の師と仰いでいて、自身の創作に際しても、そういった古典の規範に則って執筆し、ホラティウスがその『詩論』の中で述べたように、作品を通して「教え楽しませる」ことで、人々を道徳的に向上させてゆくことを旨としていた。

そういったジョンソンからすれば、高尚な使命を帯びた自分の作品が後の世の人々によって仰ぎ見られ広く読まれることになるのは、けだし当然のことであり、そのためにも、自分の作品は立派な全集で刊行する必要があったわけである。けれども、それだけ心を砕いたジョンソンの戯曲が現在一般に広く読まれているかというと、その分野の専門家を別にすれば、ほとんど読まれていないというのが実情だろう。その理由の一つに、彼の作品の多くが風刺というジャンルだったということがある。ジョンソンとしては、自分の作品の中に人々の愚行や時代の悪弊を映し出すことで、それを観た人に己の愚かさや誤りを自覚させて、彼らを正しい道に戻すことが出来、そういった点にこそ芸術の神髄があると考えたのだが、そういう風刺や揶揄の対象となるものは、時代とともに変わっていつてはやりすたりも激しいから、たとえ風刺が的を射たものであったとしても、時が経てば、何を風刺しているのかよくわからなくなってしまう、面白みも半減してしまうのである。

先ほども触れたように、外的な事情を追う限りでは、シェイクスピアには、ジョンソンのような後代への強い思い入れがあったようには見えない。彼の作品も、多くは、生前にフォリオ版の半分の大きさのクォート（四つ折り）版で出版されているが、それらは基本的に彼の意思とは離れたところで刊行されたと考えられており、作者の校閲を受けたものではなく、程度はいろいろだが脱落や誤植なども少なくない。そもそも、クォート版は後代に残すことを想定して出版されるような本でもなかった。1623年には、シェイクスピアの『全集』もやはりフォリオ版で出版されているが、これは彼の死後親しかった劇団仲間が彼の業績を惜しんで刊行したもので、そこにもやはりシェイクスピアの意思が直接反映されている

とは言いがたい。

自身の戯曲がのちのちどう読まれ演じられるのかということにたいへん気を配ったジョンソンの作品が実際には短命に終わり、そういうことに一見無頓着だったように見えるシェイクスピアの戯曲が生き永らえたというのは、皮肉な話だが、その一方で、作品の内容という点から見ると、シェイクスピアがのちのち自分の作品がどのように読まれ観られることになるかということを全く気にかけていなかったというのも考えにくい。シェイクスピアのキャリアの後半期、むしろベン・ジョンソンなどの芝居の方がシェイクスピアの芝居よりも人気を博していたということを先に述べたが、その大きな理由としては、ベン・ジョンソンらの芝居がその時々 Londons の話題や流行を敏感に取り入れていて、その分、人々の関心を引いて、活気に満ちた雰囲気や醸し出していたということが挙げられる。シェイクスピアの作品は、決して重苦しいというのではないが、ジョンソンらの芝居のような派手な話題性ということでは少し欠けるところがあって、そのことが、良かれ悪しかれソフィストケイトされてきていた 1600 年代の演劇界では、いくぶん時代遅れの芝居という印象を与えることに繋がったと思われる。劇の結末についても、ジョンソンの『錬金術師』や『ヴォルポーネ』といった作品が、ある種単純でそれゆえ痛快な勧善懲悪の展開によって、胸のすくような満足感を与えてくれるのに対して、シェイクスピアの場合、例えば、『ヴェニスの商人』のような喜劇でも、そうすっきりとは終わらない、何か重い問いかけのようなものを孕んでいるように思われる。その意味で、シェイクスピアの作品は、派手に人の気を引く要素はむしろ乏しいが、その一方で、それは私たちにとってさまざまに反芻や省察の機会を提供してくれるようにも思われる。そして、『ヴェニス

の商人』における異人への憎悪や差別の問題、『ハムレット』における他者とのコミュニケーションの難しさ、『マクベス』における野心と誠実さとの相克といった問題は、いずれも時代を超えて、現代の私たちにとっても切実で、容易に解決のつかない問題として迫ってくるように観じられる。シェイクスピアの作品を観たり読んだりしたからといって、それが即現代の問題の解決に繋がるというものではないだろうが、それでもなお、そういった経験を重ねることが、私たちが今日世界が直面する諸問題を前にした際に、安易で一方的な解決策に走ろうとするのを抑えて、さまざまな角度から物事を探ってゆこうとする力を育んでくれるのではないだろうか。

悲劇『ジュリアス・シーザー』の中で、シーザー暗殺の直後に、首謀者の一人キャシアスは次のように語る。

これからいかに多くの時代に、
まだ生まれぬ国で、
まだ知られぬ言葉をもって、
われわれのこの気高い行為がくりかえし
演じられることになろうか。

これは、もちろん、『ジュリアス・シーザー』という芝居がくりかえし演じられるだろうと言っているわけではなく、また、劇はこの暗殺行為にキャシアスが思い描いたような意義を与える形で展開することもない。しかし、作品の登場人物にこのようにずっと先のことを思い描くような言葉を口にさせているということは、シェイクスピア自身にも、やはり遠い将来を展望するような想像力が作用していたと言えるのではないだろうか。彼が、先に述べたように、容易には解決がつかず何世代にも亘って対峙していくしかない問題を提示しているということと、こういったはるかに遠い将来を遠望する想像力を備えていたということとを考

合わせると、やはりシェイクスピアにもまた、自分の作品がどのようにして後々の世代にまで読み継がれ演じ続けられていくことになるのかという深い思いが潜んでいたと想定できるのではないだろうか。

そう考えた上で、ジョンソンが、一方で自分の作品が時代を超えて生きていくことを期しながら、実際の創作に際しては、自らの芝居の核心をその時その時の劇場を包む賑やかな笑いというものに賭けていって、結果的に作品が長く読み継がれていくのを困難にしてしまったということ振り返ると、それはそれで、一つの芸術の方向性であって、決して一方的に否定されるべきものではないようにも思われてくる。むしろ、それぞれの作家が意識の表層で持っていた演劇観、芸術観と、実際に創作の現場で彼らを衝き動かしていた作家としての感覚とのあいだに、微妙なねじれがあって、それらが二人の場合、対照的に作用していたということではないだろうか。

芸術作品の寿命という点では、そういうことを念じていたジョンソンよりもそんなことをあまり頓着していたようには見えないシェイクスピアの方が明らかに優っているが、どこかで自身のそういう思惑を脇に置いて、折々の強烈な笑いに賭けていったジョンソンもまた、別な意味で魅力的で愛すべき作家だったと言えるだろう。

2019 年度金沢大学英文学会 総会プログラム

日時：2019 年 12 月 7 日（土）

13:30～17:30

会場：金沢歌劇座（大練習室）

〒920-0993 金沢市下本多町 6 番丁 27
(TEL: 076-220-2501)



13:30～14:00 総会

開会の辞 高田茂樹会長

1. 会計報告
2. 会の活動報告
3. その他

14:10～15:00 研究発表

山田美紀 (D2)

完了形と過去形に伴う副詞 ever について

向井理恵 (高岡法科大学)

俳句の「間」の認知言語学的考察

15:00～15:15 休憩

15:15～17:15 シンポジウム

ヘンリー・ジェイムズを知る

— J. Whistler, E. Wharton,
W. Faulkner を基軸に—

○里見繁美 (大東文化大学)

長岡亜生 (福井県立大学)

宮澤優樹 (金沢大学)

17:20 閉会の辞



18:00～20:00 懇親会

会場：Little Spice

金沢市柿木畠 2-11 長福ビル 1F

TEL: 076-232-0141

会費：4,500 円



《只今留学中》

★インドネシア大学より

4年 風間 万里

こんにちは。8月からインドネシア大学に留学しています、風間万里です。

早いものでインドネシア生活を始めて50日がたちました。言葉も文化も宗教も何もかもが日本と異なり、毎日が新しい発見の連続で非常にインドネシアを楽しんでいます。大学ではインドネシアの学生に混ざり勉学に励んでいます。人口が多いゆえの競争率の高さから、インドネシアの学生は非常に優秀で正直授業についていくことで精一杯です。ですが、インドネシアの人々は非常に優しく、陽気で、親日の方が多く十分すぎるくらい助けてくれます。自分の英語力不足を実感しましたが、特に落ち込んだことはありません。ぐちゃぐちゃの文法でも伝えたいという気持ちで必ず伝わるからです。何度も失敗をしましたが、臆することなく果敢に挑んでいます。相手も理解しようとしてくれますし、間違いは正してくれますしね。本当に友人関係に恵まれたと思います。

また、幸いにも人脈や周りの人間関係にも恵まれ、留学が始まってまだ1ヶ月半ですがさまざまな体験をしました。友達のお母さんの友達(つまり他人)の結婚式に参列したり、伝統衣装を身にまといダンスパーティに参加したり、小学校で英語を教えるボランティアや、海岸や街中の清掃活動を行ったりしました。また、外交官や弁護士、銀行員や人気ユーチューバーなど幅広い分野の方とごはんに行かせていただくなど、毎日が刺激であふれています。

インドネシアは急成長を遂げている発展途上国です。そのため、さまざまな社会問題であふれています。特に腐敗した現在の政治は深刻です。先週から国内の至る所で学生が大規模なデモを起こし、

自分の意見を政府にぶつけています。私の多くの友達が真剣に政治について語り、デモに参加している姿を目の当たりにして衝撃を受けました。また、健康被害を及ぼすほどの空気汚染や森林火災といった環境問題を知ったり、イスラム教の友達と接したり豚と酒を口にすることができなくなったことで、政治、環境問題、宗教について興味がわき勉強をはじめました。日本などの先進国では考えられないことが本当に起きてしまう国なので、毎日驚きと笑いが絶えません。非常におもしろい国です。それと同時に日本では気づかなかったことにも目が行くようになり、日本とインドネシア両国の良い点、悪い点について考えるようになりました。自分なりに調べて解釈を重ねることで、インドネシアと日本のどちらも本当に好きになりました。

来月には企業訪問や旅行、中間試験が控えており怒濤の1ヶ月が始まると思うとわくわくしております。安全と健康に気をつけつつ、残り9ヶ月間、充実した日々を過ごしたいと思います。



《平成30年度卒業論文題目》

井上 遼太郎 A Contrastive Study of English Participial Constructions: Through the Comparison of *Snow Country* and its Japanese Original Novel *Yukiguni*

大森 崇史 Western: The Stories of the Demise and Inheritance, “Shane” and “Gran Torino”

伍嶋 遼太郎 A Life Full of Dreams: Chasing the Way of Pip's Life in *Great Expectations*

塩浦 洋介 On the Tendency of Semantic Transfer and Structure in Synesthesia about Coffee

井野口 侑紀 A Comparison of Proverbs in English, Thai and Japanese

清水 咲紀 Multiple Oppressions of Japanese American in Hisaye Yamamoto's Short Stories: “Seventeen Syllables” and “The Legend of Miss Sasagawara”

高島 彩香 The Dead Morality about Sex and Money in *The Great Gatsby*

《在学生の状況》

<学生数>

2年生 8名（男性3名、女性5名）

3年生 10名（男性3名、女性7名）

4年生 17名（男性4名、女性13名）

院生

修士課程 1名（男性1名）

博士課程 4名（男性3名、女性1名）

<過去3年間の主な派遣留学先>

セントラル・ランカシャー大学（英国）、
ニューヨーク州立大学ニューポルツ校、
バッファロー校（米国）、カールスター
ド大学（スウェーデン）、ゲント大学（ベ
ルギー）、ワルシャワ大学（ポーランド）、
インドネシア大学（インドネシア）等

今年度の後期から5名の学生がそれぞれ違う大学に派遣留学に行きました。留学を希望しない学生でも、在学中に、語学研修や大学が企画する短期の異文化体験プログラムに参加する学生が増えています。今では、金沢大学の全学生に、TOEICのスコア基準をクリアすることが（卒業までに）求められているので、日頃から英語の勉強が必要になっています。

<過去3年間の主な就職先・進学先>

高校教員、県庁・市役所等の公務員、大学職員、国際物流関係、小売業、コンピュータ関連の民間企業など

進学先：金沢大学大学院など

民間企業の内定は例年より早く出たものの、公務員や教員の採用試験は9月まで及び、就職活動自体は依然として長期化の傾向にあります。

<2018年度（11月～3月）及び

2019年度の院生による研究実績>

◆研究発表

・2018年度金沢大学英文学会

（2018年12月1日：金沢歌劇座）

白石 峻太郎

「英日翻訳にみられる役割語の果たす役割について」

山田 美紀

「英語過去時制の「非過去」の用法について—疑問文 Did you ever...?の用法を中心に—」

・第1回 KSB ことばの会

（2018年3月29日：大阪学院大学）

廣田 篤

「「クジラの公式」の謎は本当に解けたのか」

- ・日本認知言語学会第20回大会
(2019年8月6日：関西学院大学)
廣田 篤
「No more A than B 構文の意味と機能 —「クジラ構文」とはいかなる構文か—」
- ・第1回金沢言語学フォーラム
(2019年8月13日：金沢歌劇座)
山田 美紀
「On the question *Did you ever...?*: Its assertive connotations compared with *Have you ever...?*」

◆研究論文

- ・『Kanazawa English Studies』第30号
廣田 篤 (2018) 「「クジラ構文」の類型に関する構文分析」, 69-85.
- ・『英語語法文法研究』第25号
廣田 篤 (2018) 「「クジラ構文」に見られる条件性と対偶解釈読み—構文の類型化を巡る問題—」, 121-136.

《 2018年度会計報告 》

以下の会計報告は、12月の総会に諮られます。

2018年度金沢大学英文学会会計報告

(2018年4月1日～2019年3月31日)

会計 屈莉・向井理恵

会計監査 正木恵美

収入	3,313,010 円
(内 前年繰越金)	2,838,487 円)
支出	454,477 円
2019年度への繰越	2,858,533 円

【収入内訳】	(円)
2018年度 KES 会費	
(在学生分、総会時支払分、振込分)	
	166,000
維持費	214,000
懇親会費	94,500
利子	23
小計	474,523
2017年度繰越	2,838,487
合計	3,313,010

【支出内訳】	(円)
KES 30号関連	
印刷代	179,280
振込手数料	432
ニューズレター発送関連	
用紙等備品	7,969
送料	93,000
学会専用封筒作成費	
(3000枚)	46,008
2018年度総会用	
お茶代・花代・備品	8,908
総会施設利用料(金沢歌劇座)	24,380
懇親会費	94,500
合計	454,477

《 事務局より 》

1. 会費の納入について

同封の振込用紙にて、2019年度会費2,000円の納入をお願い致します。ぜひ、会費と共に維持費（一口2,000円）もよろしくお願い致します。これまでご納入頂いてない方も、当学会の運営状況をご理解の上、何卒ご協力のほどお願い申し上げます。

○会費・維持費等の振込先：

ゆうちょ銀行

口座記号：00720-6

口座番号：16171

加入者名：金沢大学英文学会

2. 総会、懇親会の出欠について

同封の葉書(S50年卒までの方に同封)、または E メールにて、総会及び懇親会の出欠を 11月29日(金) までに事務局までお知らせ下さい。その際には、ご氏名(旧姓)、卒業(修了)年、ご住所をご記入願います。また、ご近況もぜひお書き添え下さい。頂いたお葉書やメールは、大事に保管し、総会時に閲覧できるよう受付に置いておきます。どうぞよろしくお願い致します。

3. KES 30号、31号について

KES 30号 <中村芳久先生退職記念号> は、大変遅れておりましたが、無事発刊することができました。2016年度から2018年度の間、一度でも年会費または維持費をお納め下さった会員の皆さまに今回のニューズレターと一緒に送らせております。どうぞご覧ください。なお、今年度の会費をご納入頂いた方で、KES30号の送付をご希望の場合は、連絡欄にその旨ご記入くださればお送りいたします。

また、KES 31号は、<高田茂樹先生・和泉邦子先生退職記念号>とし、刊行に向け準備を進めております。先生方との思い出を綴ったエッセイ(1,000字程度)はまだ募集しておりますので、お寄せいただける方は、まずは事務局までご一報いただけると有難いです。

◆総会プログラム・ニューズレター発送にあたり、住所(転居先)不明の方が増えてきております。住所変更等ありましたら、お手数ですが、事務局までご連絡下さい。

◆金沢大学英文学会役員(2020年度まで)

会長	高田茂樹
副会長	黒川顕成・和泉邦子
事務局	堀田優子・川島嘉美
会計	向井理恵・屈莉
監査	正木恵美
KES 編集委員会	
(英文学)	高田茂樹 宮本正秀
(米文学)	和泉邦子 小原文衛
(英語学)	堀田優子 市川泰弘
広報委員	柳川三千代
運営委員	市川泰弘、小林隆 渋谷良方、中谷博美 西多喜代子、宮本正秀
院生委員	高島彬 茶谷丹午
	廣田篤 山田美紀
	柴田裕一

《 編集後記 》

今年の総会は、午後の部のみとなりますが、英語学の2件の研究発表と文学でのシンポジウムを予定しており、内容の詰まった企画となっております。同窓会でもありますので、どうぞ皆様お気軽にご参加いただければと存じます。

大学では、人文学類内の研究室が他の研究室と融合して、プログラム制をとることが決定いたしました。英語学や英米文学は、「欧米言語文化学プログラム」の複数の履修モデルのうちの1つとして提示されることになります(来年度の入学者から適用)。在学生の所属意識の問題など、今後直面する問題が山積みですが、渋谷先生、宮澤先生(4月に着任)、堀田の3人で協力して、英文の指導体制を維持してまいります。引き続きご支援の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。(Y. H.)

金沢大学英文学会ニューズレター No. 11

2019年11月1日発行

〒920-1192 金沢市角間町

金沢大学人文学類 英語学英米文学研究室

金沢大学英文学会

代表者 高田茂樹

E-mail : kesoffice.kanazawa@gmail.com

URL : <http://english.w3.kanazawa-u.ac.jp/>